



統計から社会の実情を読み取る

第33回 老後の安心についての国際比較

本川 裕 | Honkawa Yutaka
アルファ社会科学株主席研究員

■東京大学農学部農業経済学科卒。財団民経研究協会常務理事研究部長を経て、現職。立教大学兼任講師。農業、地域、産業、開発援助などの調査研究に従事。現在は、ネット上で「社会実情データ図録」サイト（<http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/>）を主宰するかたわら地域・企業調査等を行う。著作は「物流コストと日本の産業競争力」（学術誌『国民経済』、2004年）、『統計データはおもしろい！』（技術評論社、2010年）、『統計データが語る日本人の大きな誤解』（日本経済新聞出版社、2013年）等。

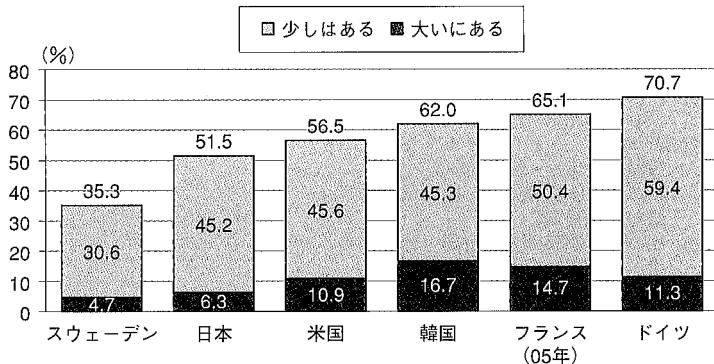


高齢者の悩みとストレスの現状

老後の安心について、現状意識と将来展望の両側面から国際比較し、日本人がおかれている状況を確かめてみよう。

まず、老後の安心の現状意識についてであるが、老後の安心が得られていない状態、すなわち、現在の高齢者が抱えている悩みやストレスについて、内閣府が行った国際比較調査の結果を示す。

図1 悩みやストレスがある高齢者（2010年）



注) 各国 60歳以上の男女が対象（施設入所者を除く）。

資料) 内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」

まず、悩みやストレスがあるかどうかを聞いた結果を図1で見てみよう。「大きいある」と「少しはある」を合計した値では、スウェーデンが最も低い35.3%となっており、日本はこれに次ぐ51.5%である。両国に続いて、米国、韓国、フランス、ドイツと値が高まり、ドイツは70.7%となっている。日本は高齢者の悩みやストレスが、少なくとも、意識上は少ない国である。悩みやストレスの内容については、悩みやストレスがあると答えた高齢者を対象とした回答結果が内閣府の報告書に掲載されているが、ここで、母数を全高齢者に変換した値を掲げた(図2)。例えば、報告書によれば、「家族との人間関係」の回答率は、日本の場合、11.8%であるが、これは、悩みやストレスがあると回答した51.5%の高齢者の回答結果なので、全高齢者の比率に変換すると、 $11.8 \times 51.5 \div 100 = 6.1\%$

となる。つまり、高齢者のうち、6.1%の者が「家族との人間関係」で悩みやストレスを抱えているという読み取り方ができる。

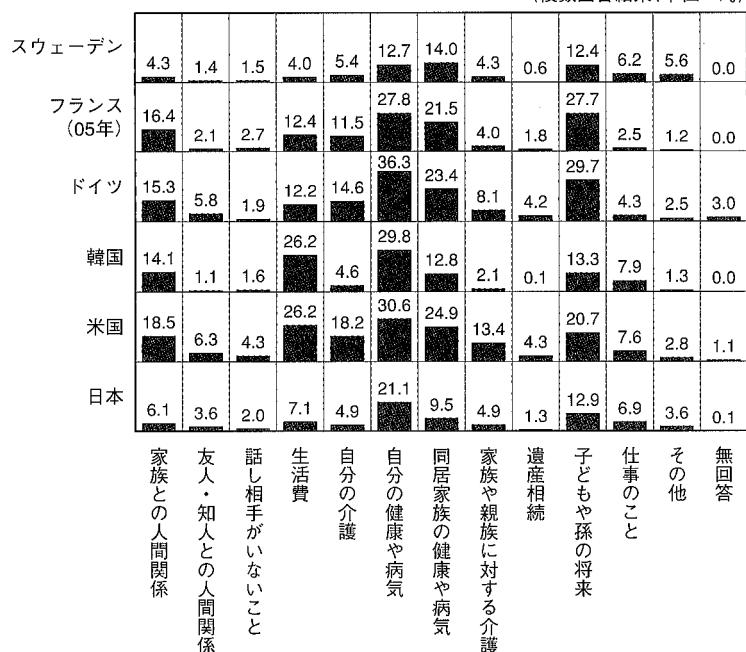
悩みやストレスの内容としては、いずれの国でも、「自分の健康や病気」が最も多くなっている。例外は、スウェーデンであり、「自分の」ではなく「同居家族の」健康や病気が首位となっている。高齢者の同居家族は、夫や妻の場合がほとんどであるので、自分のことより病気の配偶者などを思い悩んでいる場合が多いと理解できる。

日本とスウェーデンを比較すると、「同居家族の健康や病気」、「自分の介護」、「その他」の3項目を除くと、いずれも、スウェーデンの方が値が低くなっている。福祉先進国の面目躍如といったところである。

日本とスウェーデンを除く4か国とを比較すると、「その他」と「無回答」を除く11項目中5項目は、日本の高齢者の悩みやストレスが最も小さい結果となっている。特に、「家族との人間関係」、「生活費」、「自分の健康や病気」について、米国、韓国、ドイツ、フランスと比較して、日本の値が低い点が目立っている。「生活費」と「自分の健康や病気」については、日本の公的年金及び健康保険に関する社会保障制度が、今のところ、他国と比較しても、円滑に機能している結果の側面が大きいと考えることができる。「家族との人間関係」についても、生活費や健康面での心配が少ないとみたため、間接的

図2 高齢者の悩みやストレス(2010年)

(複数回答結果、単位：%)



注) 各国60歳以上の男女が対象(施設入所者を除く)。日常生活で悩みやストレスがある高齢者に聞いた「悩みやストレスの内容」の回答結果(複数回答)。
母数を悩みやストレスがない高齢者を含む全高齢者に変換した値。

資料) 内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」

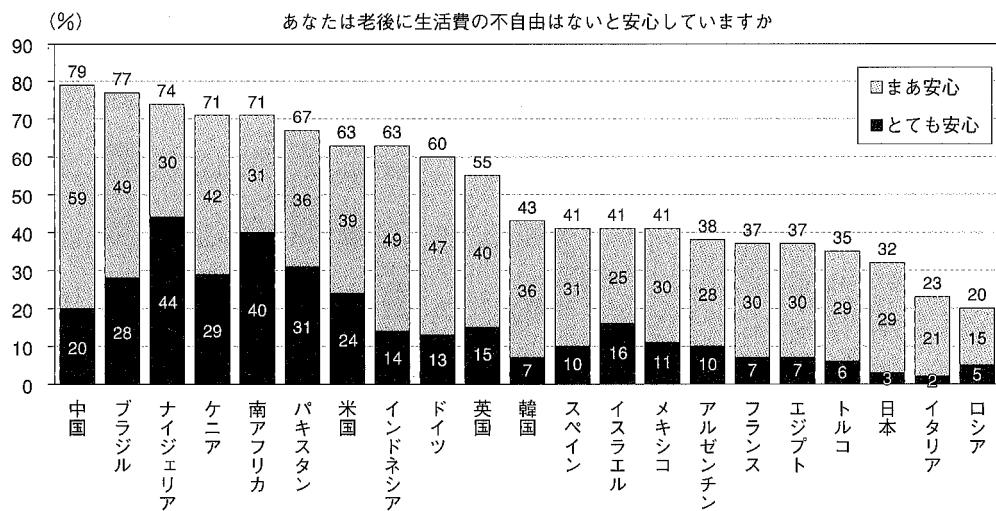
に、良好になっている側面も大きいのではないかとも推測される。

老後の安心についての将来展望

次に、老後の安心の将来展望である。若い世代を含めた成人全体を対象に、米国のピューリサーチ・センターが2013年春に行った国際比較調査の結果を見てみよう。図3に示しているのは、老後の安心のうち、経済面、すなわち不自由のない暮らしをできる生活費を得られると安心しているか、という設問に対する回答結果である。

老後の生活が経済的に安心だとする者の割合は、日本の場合、32%であり、対象21か国中、ロシアの20%、イタリアの23%に次いで低い

図3 老後の安心の国際比較（2013年）



注) 18歳以上が対象。設問の英語表記は "Thinking about yourself, how confident are you that you will have an adequate standard of living in your old age - very confident, somewhat confident, not too confident, not confident at all?"。

資料) Pew Global Attitudes Project「2013 Spring Survey」

値となっている。高齢化の状況の国際比較については語られ尽くしているようにも感じていたが、老後の安心に関する国民意識の違いがこれほどだとは、この結果を見るまでは、私も思ひが至らなかった。

21か国の結果の高低を見渡すと、経済成長率の高い国ほど、安心度が高く、経済の伸びが低迷している国ほど、安心度が低いという一般的な傾向が認められる。中国、ブラジル、ナイジェリアといった成長率の高い国では、7割を上回る者が、将来の老後の生活は経済的に安心と回答している一方で、日本やイタリアといった経済が低迷している国では、安心度が20～30%前後と低くなっている。

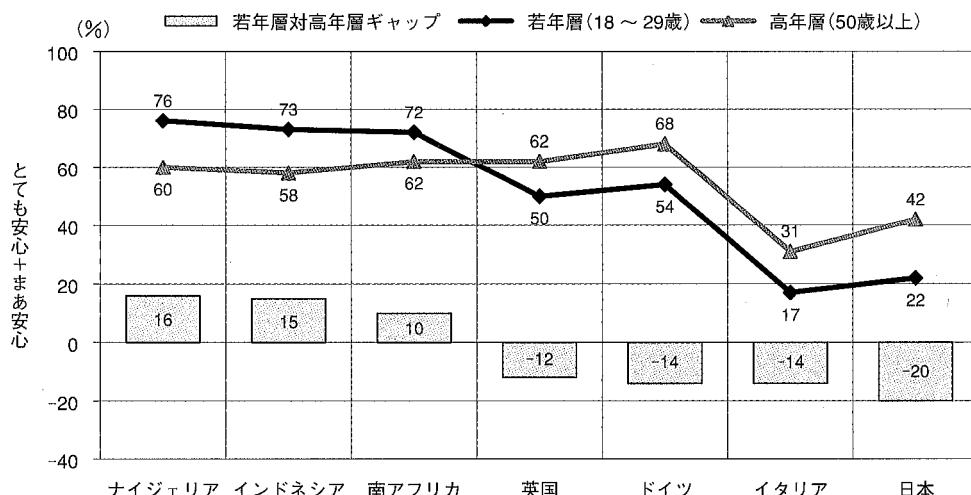
これは、成長率の高い国では、将来、老後に得られる所得水準が上昇していくという予想をもつ人が多いという要因に加えて、成長率の高い国は現在の所得水準が低い国が多く、老後に不自由しない程度の生活費として、そう高い水準で考えている人が少ないという要因が働いて

いるのだろう。普通の日本人が老後に期待する生活水準は、中国人にとって不自由を感じない生活水準を大きく上回っていると考えないと日本人の安心度の低さを理解できない。

なお、日本やイタリア以上にロシアの値が低いのは、現状は比較的高い経済成長を続けていけるとはいえ、それがエネルギー資源に依存したものである以上、将来はこのままとは思えないという国民意識をあらわしているものではなかろうかと私は思う。

老後の生活の安心度には、さらに、国全体の将来的な高齢化の程度の見込みも関係していると思われる。経済成長率は、先進国では概して低い水準となっているが、米国、ドイツ、英国では、老後の生活の安心度は、55～63%とそれほど低くなく、それに対して、日本やイタリア、特に日本の安心度が低い。これは、低レベルの出生率の影響もあって、予測される高齢化の程度が半端な水準ではなく、それだけに、年金、医療、介護などに関して、若い世代に頼る

図4 老後の安心の世代間格差（2013年）



注) 図3と同じ。若年層対高年層ギャップは統計的に有意な差がある国のみを表示。

資料) 図3と同じ。

ことが難しいと予想されること、また、現時点では、既に将来の若者の負担となる国の借金の対GDP比も大きくなってしまっていることにより、なおさら、国民が不安を募らせているためだと考えられる。

こうした結果は、上で見た内閣府の国際比較調査（図1及び図2）で、2010年段階の高齢者（60歳以上）については、日本がスウェーデンと並んで「生活費」の悩みの割合が小さいのとは対照的であり、世界一とされる高齢化予想の下、今はいいけれど、これからは大変という意識が日本人には強いのである。現状意識と将来展望にこれほどのギャップがあること自体が注目される。また、この点は、以下に述べるような世代間の意識ギャップの大きさにもむすびついている。

老後の安心についての世代間格差

若年層（18～29歳）の高年層（50歳以上）に対する老後の生活への安心度の意識ギャップを調べてみると（図4）、日本の若年層の安心

度は22%と、高年層の42%に比して、マイナス20%ポイントであり、他国に比べギャップが格段に大きくなっている。将来的に若者の負担となる国の借金に加えて、社会保障の内容についても、年金など高齢者対策を教育や少子化に関する若年層対策より優先させるなど、高齢層が若年層にしづ寄せしている状況（高齢層が利益を先食いてしまっている状況）が、こうしたギャップの大きさを生んでいるといえよう。

ナイジェリアやインドネシアなど、これから経済成長が期待できる国では、先進国とは逆に、高年層より若年層の方が老後の生活の安心度が高くなっているのが印象的である。そして、日本は、その正反対の方向が一番顕著なのである。老後の安心に関して、日本ほど、若年層が相対的に暗い国はないのである。わが国の閉塞感の根底には、こうした状況が横たわっていると考えられる。

* 「社会実情データ図録」関連図録

[1] 図録0157「主要国における人口高齢化率の長期推移・将来推計」